

2019年ゴリ資源の現況把握調査

亀甲武志・太田滋規・松田直往

1. 目的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ(ウロリ)”は琵琶湖の重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しい。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方法

ゴリの主要漁場である薩摩地先(水深4m、7m、10m、13m)、松原地先(水深8m)および沖島地先(水深8m)において、ゴリ調査用に開発したビームトロール網(ビーム長4m、袋網目合1.4mm)を用い、約1.5km/hで6分間曳網し、採集を行った。採集したサンプルは現場にて10%ホルマリンで固定し、ソーティングを行ったが、体型が小さく、種判別の困難なハゼ類は、便宜的にゴリとし、計数した。

本調査によるゴリの採捕尾数は、例年、6月頃から捕れはじめ、7月頃に最も多くなる変動を示している。そこで今年度は6月から8月にかけて、のべ3回調査を行った。

資源指標値の評価については、携帯型GPSにて曳網開始時と終了時の位置を記録し、曳網距離を計測し、100m曳網あたりのゴリの採捕尾数として評価した。

3. 結果

ゴリの平均採捕尾数は、例年漁期直前の7月の水深7、8mでよく採捕されることから、過去のデータと比較した(図1)。2019年は2018年よりも多かった。一方で水深4m地点では2018年に続き例年になく多く採捕された(図2)。松原、沖島の水深8mでの採捕尾数は6,324尾、3,177尾であった。近年の研究からゴリには複数種が含まれていることが判っており、これらの水深や水域で採捕さ

れた個体を遺伝的手法で種判別を行う必要がある。

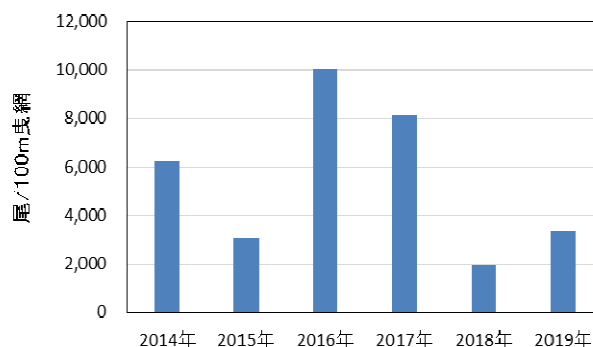


図1 薩摩の7月調査時の水深7m地点の100m曳網あたりのゴリ採捕尾数

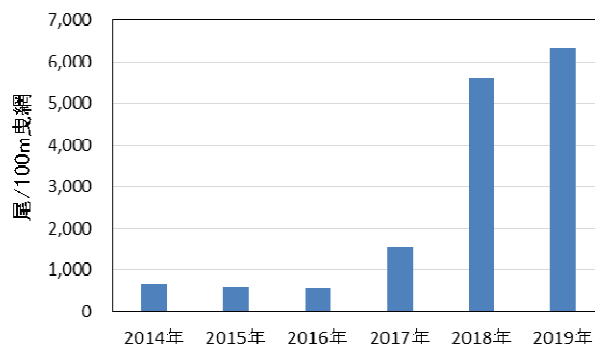


図2 薩摩の7月調査時の水深4m地点の100m曳網あたりのゴリ採捕尾数